

校長室より

## 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼敦之

## 年に一度のご挨拶

早いもので1月も中旬を過ぎました。「1月は住(い)ぬる、2月は逃げる、3月は去る」(住ぬる：過ぎ去った。去るの意)といます。今年は閏年で2月は一日多いのですが、あっという間に来年の正月を迎えることにならないよう一日一日を大切に過ごしていこうと思います。

さて、今年も年に一度の挨拶を交わす人がいつものようにいます。正月は年賀状の便りが生きている証みたいなものになっています。今年も元日の昼過ぎにポストには輪ゴムで束ねた年賀状が届いていました。

一枚一枚、かつて指導いただいた恩師、一緒に仕事をしたり、遊んだり、時には苦労した仲間、そして教え子達からの挨拶や近況を確認しながら昔を懐かしみ、そしてずい分と時が経ったことを改めて感じたりする時間です。その中には、なんと！！「二松学舎の学校説明会に娘と一緒に参加しました。先生のプレゼン聞きましたよ。」というのがあって、嬉しくもあり、恥ずかしくもありでした。

昔は娘が、宛名ごとに年賀状を振り分ける係でしたが、自分宛の枚数が私のと比べて少ないことに少しがっかり、そして恨めしく感じていたようです。「でも仕方ないよ、生徒が沢山送ってくれる分もあるんだから・・・」と娘の機嫌をとっていました。

でも年々、年賀状の枚数が少なくなってきました。教え子たちからの便りもぐっと減り、今やメールやインスタのイラストで送ってくる時代になりました。それはそれで仕方ないとは思いますが、ちょっと味気ない気がしないでもありません。ひと昔前までは、“プリントゴッコ”(と言っても生徒は知らず、保護者だけが、あったあったと頷いてもらえる代物)で、一枚ずつ作成したのなのですが・・・電子メールやSNSが普及してもはがきや手紙は、なお大切なコミュニケーションの手段だと思います。例え印刷であっても一言でも手書きの文章があると、自分を思いながら書いてくれたんだなあとしみじみ嬉しく感じますよね。

また、年齢もあり同年代の方々から「年賀状じまい」の連絡を受けることも多くなりました。賀状の脇に「今年で新年の挨拶をおしまいにしたく存じます。長い間、ありがとうございました」と添えられています。自分も随分と歳をとったなあとつくづく感じます。

今年の秋から、はがきは63円から85円に値上げされるそうです。ますます、年賀状離れが加速する気がします。1年に1度位は、一言添えて挨拶ができるといいのには思いますが。

今年も懐かしい便りに励まされたり、共感したり、無事を互いに確認したりして年が明けました。



『日枝神社のお札・絵馬・破魔矢』  
学校法人二松学舎が所在する「三番町」一帯は日枝神社の氏子で、毎年御札をいただいています。

### 3学期始動 ～活動あれこれ～

暦の上では1年の始まりですが、学校のカレンダーでは1年締めくくりの時期に当たります。3学期は学年の総まとめでもあります。

3年生は受験を控えている人も新たなステージに向けて準備が必要ですね。1・2年生は積み残しの無いようにして進級を目指したいものです。

学校は授業が始まり、いつものように活気ある生活が展開されています。

3学期の体育の授業では「皇居ラン」が始まりました。2月21日の持久走大会を目指して、1周約5kmの皇居をランニングします。英国大使館前をスタートし、国会議事堂前の坂を下り、桜田門へ。その後、江戸城大手門・東京駅前を通過して、国立近代美術館前の上り坂を走り千鳥ヶ淵に戻るルートです。今日は、タイムを計ってました。本番に備えて頑張りましょう。



16日(火) 朝からは玄関前でボランティア部が「能登半島地震」支援への募金活動をスタートしました。寒風の中、顧問の横関先生も一緒に一般生徒への声掛けをしていました。罹災され、避難生活を余儀なくされている皆さんのことを思えば寒さも何のその。ぜひ支援活動に協力しましょう。

同じく16日と17日の二日間、1階ホールでは昼休みにギター部が発表会(今年度第2弾)を開催しています。昼休みの短い時間ですが、「自分たちの好きなことを通して、学校を盛り上げる」ことを目的に演奏を披露してくれました。大勢の生徒がホールに駆けつけ、拍手で応援する姿が見られました。



16日午後からは、PC教室を使って英会話レッスンが行われていました。ネイティブとの会話に最初こそ照れ臭そうでしたが、慣れてくればテンポよく会話を楽しんでいました。習うより慣れろですね。

17日の2年生「学びのコース」は、二松学舎大学との連携授業です。7回目となった今回は、歴史文化学科・野村教授による『ナポレオンのはなし～ヨーロッパ史を動かしたファミリーヒストリー』でした。野村先生の「日本語で西洋史を勉強できるのは実はスゴイこと！」という講義は目からウロコでした。また、「翻訳という行為は異文化理解」という内容もナルホド。

新学期も生徒諸君は 皆、新たな学びや体験など様々な活動に前向きに取り組んでいます。

